

マラウイ月報(2014年3月)

主な出来事

【内政】

- 3月16日, 与野党支持者の衝突による暴動で二名死亡。
- 3月20日, 5月の同時三選挙に向け公式選挙運動期間が開始。

【外政】

- 2月26日～3月1日, バンダ大統領はコンゴ(民)及びナイジェリアを訪問。
- 3月20～21日, マラウイ, タンザニアの国境問題についてモザンビークで会合開催。

【経済】

- 3月24日, リロングウェの葉タバコオークション会場にて, 今シーズンの葉タバコ取引が開始。
- 3月25日, 当国主要ドナーである一般財政支援グループと政府は共同で臨時実績評価レビュー会合を開催。

【内政】

・ 大統領機売却収益の用途不明問題

3月5日, ムケザランバ・マラウイ財務大臣の記者会見で, 大統領売却収益は同機を買い取ったポーノックス社から同社親会社パラマウント・グループに支払われたことが明らかになった。同大臣はこの理由として, マラウイ政府はパラマウント・グループからの武器購入代金を滞納しており, 同社に対し多額の負債を抱えていたため, 大統領機売却収益を右滞納金の一部返済に充てた旨述べた。他方, バンダ・マラウイ大統領は, 同売却収益はメイズ等食糧購入に使ったと説明しており, ムケザランバ大臣の見解と齟齬が生じている。(3月10日, ネーション紙1-2面)

・ 副大統領候補討論会開催

3月8日, ゴディアック・ラジオ局は, マラウイで初めての取り組みとして5月の大統領選挙に向け, 副大統領候補の討論会を開催した。与党人民党(PP), マラウイ議会党(MCP), 民主進歩党(DPP), 統一民主戦線(UDF)の主要四党の各副大統領候補が登壇し, 汚職の防止, 税制基盤の拡大, 母子健康, 同性愛, 法の遵守等について約2時間にわたり討論を行った。(3月10日, ネーション紙2-4面, デイリータイムズ紙1, 3面)

・ 与野党支持者の衝突

3月16日, マラウイ南部チョロでのPP選挙演説の最中に小規模な暴動が発生し, 2名が死亡。ハラ保健大臣(PP)によるムタリカDPP党首に関する発言を発端に, 群衆からの投石が始まり暴動へと発展, 警察官1名, 市民1名が死亡した。また, 翌17日には, 南部ブランタイ

ヤにてピリDPP選挙運動局長(ムタリカ同党党首の秘書兼任)がPP党员を含む15名のグループに襲撃され、ブランタイヤの病院に收容された。さらに18日午前2時頃、北部ムズズにおいて、DPPの車両がPPと見られるグループから襲撃され、右車両が放火された。なお、与野党支持者の対立により死亡者が発生したことを受け、当館を含む外交団(日、英、米、独、国連、EU、アイスランド、アイルランド、ノルウェー)は、被害者への追悼を示すとともに、政治家や伝統的首長を含む全てのマラウイ国民に選挙に関する暴力及びそれらを誘発する言動を控えるよう求める共同声明を発出した。(3月17~19日、ネーション紙及びデイリータイムズ紙)

- ・ **公式選挙運動期間の開始**

3月20日、マラウイ選挙委員会(MEC)は選挙運動期間の開始を宣言した。開始式には各党幹事長、NGO関係者、宗教団体等が参加した。MEC委員長は政党や立候補者に平和な選挙の実現を呼びかけた。同式典では参加者から、国营放送局(MBC)の与党に傾倒した報道が指摘される等、公正な選挙の実施に向け懸念の声も目立った。(3月21日、ネーション紙1~2面)

【外政】

- ・ **バンダ大統領のコンゴ(民)及びナイジェリア訪問**

2月26日~3月1日、バンダ・マラウイ大統領がコンゴ(民)及びナイジェリアを訪問、コンゴ(民)でCOMESA首脳会合に出席、ナイジェリアでは南北統一百周年記念式典に参加した。(3月3日、ネーション紙3面)

- ・ **SDAC閣僚級会合開催**

3月10日~11日、リロングウェにてSADC閣僚級会合が開催され、主に翌年度のSADC事務局予算案について協議が行われた。同会合ではチウメ・マラウイ外務国際協力大臣がマラウイ政府の汚職問題発生後の対応状況についてSADC加盟国に説明する場面も見られた。(3月13日、ネーション紙(オンライン版))

- ・ **タンザニアとの国境問題: 仲裁プロセス行き詰まりへ**

3月20~21日、マラウイ、タンザニア両国の代表団はモザンビークを訪問し、国境問題に関するアフリカ元首脳フォーラムによる仲裁結果の報告を受けた。チウメ・マラウイ国際協力大臣によれば、チサノ前モザンビーク大統領率いる仲裁団の提案は、両国は湖の資源の共同利用方法について協議を進め、その結果に沿う形で国境を定めるべきとの内容であったが、マラウイ側は国境確定の前に資源利用について協議する意志は無く、タンザニア側も右については同様の立場であり、話し合いは行き詰まりを迎えた。(3月26日、デイリータイムズ紙3面)

【経済】

・ 日本政府からのWFPを通じた食料支援

日本政府は、食糧不足に陥った人々への支援として、WFPに対して210万米ドルを支援した。内、110万米ドルは緊急食糧配布に、50万米ドルはコミュニティ・インフラの修復等、食糧不足に陥った世帯が通常の生活に戻るための復興支援に、50万米ドルは難民への食糧支援に使用される。(3月5日、ネーション紙7面、デイリータイムズ紙34面)

・ タンザニアとのワン・ストップ・ボーダー・ポスト合意

3月10日、グエンゲ・マラウイ産業貿易大臣とサラム・タンザニア財務大臣は、ワン・ストップ・ボーダー・ポスト合意に署名した。これにより、マラウイのソングウェとタンザニアのカスムルにそれぞれ配置されていた出入国管理機関は一つに統合され、両国共通の出入国管理機関が設置されることとなる。(3月11日、ネーション紙9面)

・ マラウイ湖石油開発に掛かる環境調査終了

3月10日、サック・オイル社は昨年4月より、マラウイ北部16,000キロ平方メートルの区域に対して、環境リスクに関する衛星調査を行っており、今般同社は同環境影響調査を終了した旨発表した。(3月12日、デイリータイムズ紙3面)

・ フランスによる債務帳消し

フランスは当国に対する1080万ユーロの債務を帳消しした。同金額は今後6年間に渡り、贈与として鉱業分野に使用される予定。ムケザランバ・マラウイ財務大臣によれば、特に鉱山省の地質図作成プロジェクトに使用されるとのこと。(3月14日、ネーション紙9面)

・ 経済成長率は5.4%の予測

ニコ・アセット・マネージャー社は、2014年の経済成長率は5.4%となる見込みであり、高インフレ率、高貸出し金利が民間セクターの活動を抑制することが経済成長のリスクであると発表した。(3月17日、ネーション紙9面)

・ チレカ国際空港一時閉鎖

3月16日、マラウイ政府は滑走路の補修のため、南部ブランタイヤのチレカ国際空港を一時閉鎖した。マラウイ政府によれば、同空港は1966年の開港以来一度も抜本的な修繕が行

われたことがなかった。今次一時閉鎖により、ブランタイヤ発着の便が止められたが、同空港は緊急補修の後、23日に再開された。(3月17日、ネーション紙1面及びデイリータイムズ紙1面、3月25日、ネーション紙3面及びデイリータイムズ紙3面)

- ・ **日本からのインフラ分野への支援**

3月17日、対マラウイ無償資金協力マラウイ無償資金協力「テザニ水力発電所増設計画(詳細設計)」のE/N署名が行われ、テザニ水力発電増設計画の詳細設計に対し支援が行われることとなった。マラウイ政府によれば、この支援により、当国に対して21.8メガワットの電力追加供給が行われる見込み。(3月19日、ネーション紙9面及びデイリータイムズ紙2面)

- ・ **2月インフレ率は24.6%**

2月の前年同月比インフレ率は1月より1.3ポイント下がり、24.6%と発表された(都市部インフレ率は1.9%上昇、農村部インフレ率は4.4%減少)。統計局によれば、当国消費者物価指数の計算に大きな影響を与える食料価格が2月上旬より下落し始め、インフレ率の低下につながった。(3月21日、ネーション紙9面及びデイリータイムズ紙9面)

- ・ **今年の葉タバコ生産見積もり及び葉タバコ取引**

3月24日、リロングウェの葉タバコオークション会場にて、今シーズンの葉タバコ取引が開始され、バンダ・マラウイ大統領が開始式に出席した。葉タバコは、多くは0.80米ドル～1.40米ドル/キロ、高いもので2.05米ドル/キロで取引された。また、今シーズンの葉タバコ生産量として、ムンタリ・マラウイタバコ統制委員会(TCC)総裁は、1億9300万キログラム(193,000トン)の生産を見込んでいるとした。(3月24日、デイリータイムズ紙5面及びネーション紙9面、3月25日、ネーション紙)

- ・ **一般財政支援グループからの財政支援拠出再開動向**

3月25日、当国主要ドナーである一般財政支援グループ(CABS)と政府は共同で臨時実績評価(EPAF)レビュー会合を開催した。CABSの議長国を務めるバウム駐マラウイEU大使は、政府の歳出削減において社会的支出には優先的な予算配分を行うことが期待されていたにも拘わらず、各省による資金繰りの結果として、貧困層に届くべき社会的支出に悪影響が生じていることが大きな懸念であるとした。バウム大使によれば、財政支援再開の可能

性については依然として不明であり、各ドナーがそれぞれ再開の是非を決定することとなっている。(3月26日、ネーション紙1面及びデイリータイムズ紙1面)

【警備・治安】

・ 住居侵入強盗

3月4日午前零時頃、リロングウェ市エリア6のINGOオフィスコンパウンドに覆面をした11人組の武装強盗団が侵入。犯人は数日前からレンガの壁に車のバッテリー液を染み込ませ、レンガの壁を音を発せずに破壊させた。犯人の一人はショットガンを所持し、コンパウンドには2名の警備員がいたが、一人の警備員が抵抗をして犯人からパンガ(ナタ)で腕に深い傷を負いながらも、隙を見て首から下げたアラーム通報ボタンを押したことから、犯人達はすぐに警備員を縛り上げ、警備員の携帯電話やお金のみを強奪し、オフィスへ入ること無く、警備会社と警察の到着前にそのまま逃走した。(当地外交団警備担当者会議での報告)

【医療】

・ 医薬品予算逼迫

保健セクターの上半期報告によると、次の国家予算執行まで6ヶ月も残す段階で、ほとんどの県病院で医薬品を買う予算が底をつきかけており、基本的な医薬品のストックもない状態である。(3月11日、ネーション紙1-2面)